



神戸国際大学  
キリスト教センター通信  
第 108 号  
2024 年 4 月 9 日

## 「しんどいこと」の後に

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉 哲哉

世の中で「しんどいこと」って何だと思えますか。人によってそれぞれ異なるでしょうが、そのひとつには間違いなく「勉強や研究」があります。何かの目標に向って毎日の勉強や研究に時間を割いて、知らないこと、わからないことをひとつずつ解いてようやく正解や発見に至ります。また、語学の習得や検定資格などを取得する場合は一定のレベルに合格しても満足することなく、さらに上級を目指して試験を受け続けるということもあるでしょう。

新入学生のなかには受験勉強に力を注いでようやく合格したのだから少しの間だけでも勉強から離れたたいという人がいるかも知れません。しかし、努力や我慢など「しんどいこと」を乗り越えると、その後には「楽しいこと」があると知っている人も少なくないはず。受験勉強を頑張ったから大学で希望する専門の勉強ができる「努力したから喜びもひとしお」と感じる経験がそうです。そして世の中でしんどいのは勉強や研究だけではなく、音楽や芸術の業を磨いてコンテストに入賞する、鍛錬の結果としてスポーツの大会で優勝する、他にもさまざまな努力や工夫で職業・仕事などのモチベーション・やりがいを高めることに置き換えることができます。



努力や工夫をしなくても簡単にできるとありがたい場合もあるのですが、努力や工夫はその後の楽しさや喜びを大きく育てます。同じことを繰り返すと、ある程度までは慣れて習熟しますが、知っていることやわかっていることが続くと単調になってやがて飽きてしまい、やりがいや楽しさ、達成感のレベルは下がってしまいます。

Success is the result of  
consistent effort and hard work!

かつて研究仲間と調査した結果から明らかになったことですが、やりがいや達成感を高めるためには勉強でも仕事でも自分の能力よりもいくらか高いレベルの課題に挑戦すること、ある程度の手順や行程は自分で工夫できること、そして仲間や同僚との良好なコミュニケーションを確立することが重要です。コミュニケーションについては「仲間との楽しい関係」ではなく「社会人として信頼できる関係」であることが必要なので、学生時代とは異なった人間関係を作ること、自分自身が大人として成長することも忘れてはなりません。

だから「知らない人と話をするのは気まずいじゃないですかあ」って言い続けていると…。

\*\*\*\*\*

詩編 126 : 5-6

涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い 喜びの歌をうたいながら帰ってくる。



ひとくちメモ：キリスト教では旧約聖書と新約聖書をあわせたものを聖書 (THE BIBLE) といい、旧約聖書は神が世界を創ったところから始まり、新約聖書はイエスの誕生からその生涯を弟子や信徒らが書き記した書物で、総発行部数は60億冊とも言われ700以上の言語に翻訳されています。